

2010年度の VERAプログラム小委員会報告

小委員会委員長
藤沢健太(山口大学)

VERA共同利用観測の公募

- 世界に公開した共同利用観測の公募
 - 観測期間:2011年の1年間
 - 周波数=22/43GHz
 - 2ビームの観測=提案可能
 - 観測局の利用形態は3通り可能
 - VERAのみ
 - VERA+NICT34m
 - VERA+NRO45m+NICT34m
 - 目標観測割当時間=400時間
 - 従来どおり
 - 公募締切:2010年10月15日

プログラム小委員会の概要

- 小委員会の開催

- 日時: 2010年11月30日 9:30 - 11:30

- 場所: 国立天文台三鷹小会議室

- 委員会構成員・出席者(敬称略)

- 台内

- 本間(水沢VLBI観測所)、久野(野辺山)

- 台外

- 市川(関戸委員の代理、情報通信研究機構、鹿島)、今井(TVで参加、鹿児島大学)、藤沢(山口大学;委員長)

- オブザーバー

- 柴田(水沢VLBI観測所)

- 欠席

- 郷田(天文台)

応募・審査結果

- 応募
 - － 総数10件(前年は9件)
 - － 国内提案8件、国外提案2件(前年は国内のみ)
 - － 総要求時間 447時間(平均45時間/提案)
 - － 野辺山・鹿島利用希望 37時間
- 採択
 - － 採択数 8件(うち、条件付きが3件)
 - － 観測時間 348時間
 - － 野辺山・鹿島の利用 1件、20時間
(可能な範囲で実施)

審査の補足

－ 割当時間

- 要求通り 5件
- 要求より少ない時間を割当 3件
- 割当なし 2件

－ 議論

- 要求観測回数と必要性の検討(1件)
- 感度による観測の難しさ(3件)

－ 条件付き採択

- 参照電波源が検出できるかが不明。1回目の観測で参照電波源が検出できなかった場合は観測を中止することを条件として採択。
- 目標位置精度を達成できるかどうか。最初の1セッションの結果を委員会に報告してもらい、そこで継続を決定する。

観測時間・割り当て

Proposal Title	提案者	所属	総割当時間
Phase-Referencing Measurement of the Jet Speed Originated in the Recent Activity of 3C 84	H. Nagai	ISAS/JAXA	40
The distance to the binary AGB star W Aql	S. Ramstedt	Argelander Institut für Astronomie	54
赤色超巨星で探る銀河回転: 渦巻銀河における密度波理論は正しいか?	朝木義晴	宇宙科学研究所	54
VERA - Suzaku joint observations of a giant are on V773 Tau at periastron passage	T. Umemoto	NAOJ	32
Relative Proper Motions and Astrometry of H ₂ O Maser Spots in NGC 6334I(N)	Chibueze, James Okwe	Kagoshima University	20
GPS電波源2134+004の非対称構造を決めているものは何か?	輪島清昭	山口大学	20
Simultaneous Observations of Microquasar Cyg X-3 and Star-Forming Region W75N	Soon-Wook Kim	Korea Astronomy and Space Science	32
γ線ブレーザーMrk 501 のコアピーク絶対位置ふらつき探索	Shoko Koyama	NAOJ	96
		合計時間	348

AGN=3件、星・星形成=3件、マイクロクエーサー=1件、銀河系力学=1件

その他の議論：昨年からの継続

- 参照電波減が弱い場合の対応
 - レフェリーから、参照電波源の検出可能性が未定な場合、フリンジ検出のための試験観測を一般の観測者も提案できるようにしたらどうかという意見があり、VERA で実施を検討することにする。鹿島 34 m も参加可能との提案があった。
 - 1ビーム観測
 - 共同利用の観測モードに1-beam 観測用のモード (16 MHz 16 channel すべて A-beam) を追加する。
 - 観測結果のフィードバック
 - 共同利用観測の結果をレポートして欲しいとの要望があった(各望遠鏡へのフィードバックという意味)。
- ⇒ ユーザーへ働きかける。